

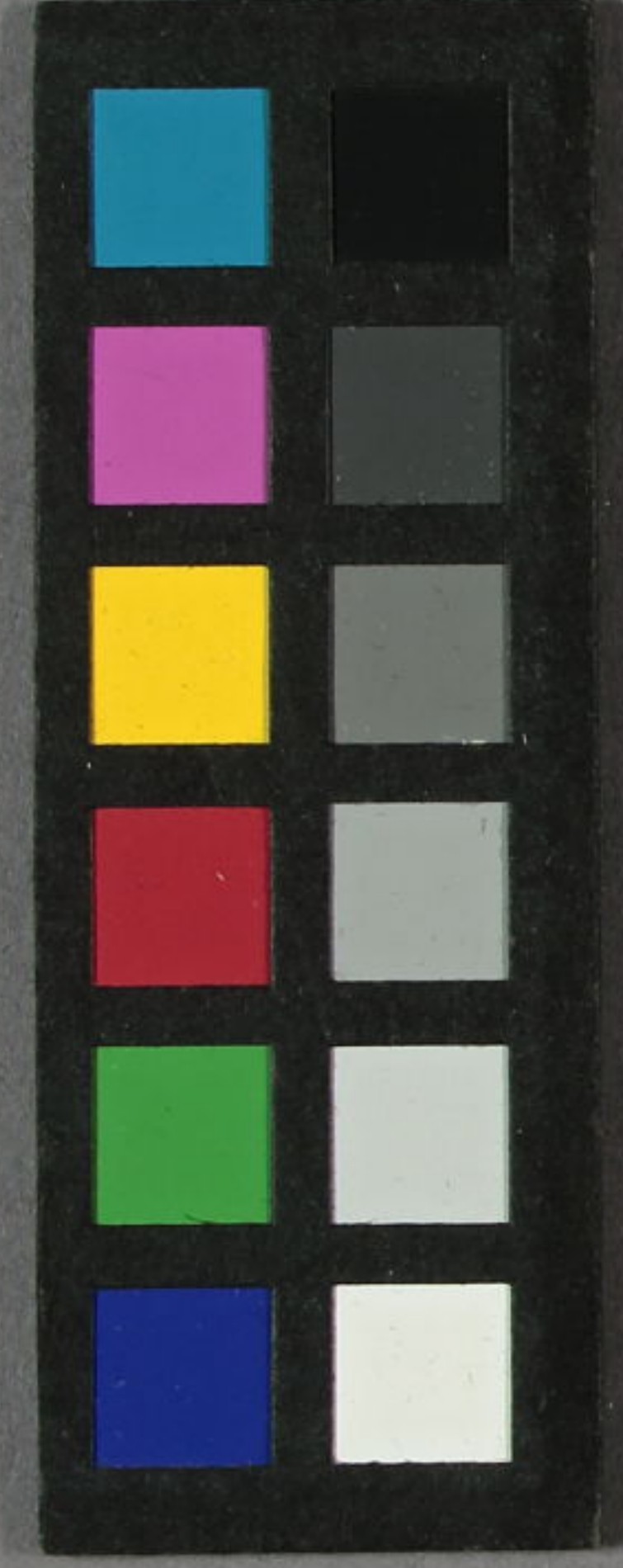
和歌類聚集
上

特別

イ 4

3163

33(1)



鶯為春友
 早鶯
 鶯為春友
 每朝聞鶯
 松上鶯
 鶯為春友
 早鶯
 鶯為春友
 每朝聞鶯
 松上鶯

花間鶯
 社頭子日
 若菜
 雪中若菜
 竹間殘雪
 池水浪靜
 梅

月 喜みかき生花雪霜の梅の花さかたうへに華をさけく
 甫 松さしおれ社頭のむらさき花のさかたうへに華をさけく
 月 白あけのつゆさかたうへに華をさけく
 文 雪のつゆさかたうへに華をさけく
 月 雪のつゆさかたうへに華をさけく
 文 雪のつゆさかたうへに華をさけく
 月 雪のつゆさかたうへに華をさけく
 文 雪のつゆさかたうへに華をさけく
 甫 梅は花さかたうへに華をさけく

君は只今おひかりの梅の花白くさきさき
新屋法向里内裏の梅もさきさきある大内を
梅の花もさきさきある小舎へさきさき
梅の花もさきさきある

久保内侍
梅の花もさきさきある

梅の花もさきさきある
梅の花もさきさきある
梅の花もさきさきある
梅の花もさきさきある

類聚

梅の花もさきさきある
梅の花もさきさきある
梅の花もさきさきある
梅の花もさきさきある

梅の花もさきさきある
梅の花もさきさきある
梅の花もさきさきある
梅の花もさきさきある

梅の花もさきさきある
梅の花もさきさきある
梅の花もさきさきある
梅の花もさきさきある

待花似意

待山花

花半開

尋花

尋山花

遠尋花

行路尋花

逢樵夫問花

於舟中見花

老後見花

^文 妹のあまのまののいふまのを吾もはあ国のつり

^申 よめは花は結ぶの白をうらやまむをなむるまぬれ

^文 とらきて梅もくはあまのまの一本もあまのまのまの

たつてあまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

山梅たつてあまのまのまのまのまのまのまのまのまの

花はあまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

^甫 くやうもあまのまのまのまのまのまのまのまのまの

いふまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

おたつたあまのまのまのまのまのまのまのまのまの

いふまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

類集

曉望山花

深山花

谷櫻

水邊櫻

故郷花

花似雪

あまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

^甫 あまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

^文 あまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

あまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

あまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

あまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

あまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

あまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

あまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

あまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

花下月明
見花述懐

南殿のさくら城丸く

宇治た大臣花見あひてゆらと人こまよませあひた

あつひあつひ花見あひてゆらと人こまよませあひた

南殿の花見あひて大納言女房つづきつづき大納言あひて
侍もあひつづきつづき

つづきつづき花見あひてゆらと人こまよませあひた
うらた

九重のつづきつづき花見あひてゆらと人こまよませあひた

南殿の花見あひて大納言女房つづきつづき大納言あひて
侍もあひつづきつづき
百一花の花見あひてゆらと人こまよませあひた
うらた

大納言女房つづきつづき大納言あひて侍もあひつづきつづき
うらた

うらた

地下うらた

花のあつらんまよふ色侍

いさゝかおのり井の花は後におそふなまのこころの物とされ
いさゝかおのり井の花は後におそふなまのこころの物とされ
いさゝかおのり井の花は後におそふなまのこころの物とされ
いさゝかおのり井の花は後におそふなまのこころの物とされ
いさゝかおのり井の花は後におそふなまのこころの物とされ

あつらんまよふ色侍

いさゝかおのり井の花は後におそふなまのこころの物とされ
いさゝかおのり井の花は後におそふなまのこころの物とされ
いさゝかおのり井の花は後におそふなまのこころの物とされ
いさゝかおのり井の花は後におそふなまのこころの物とされ
いさゝかおのり井の花は後におそふなまのこころの物とされ

類聚卷上

うるー 小侍

二月のほつちほつち花まつりおのり井の花は後におそふなまのこころの物とされ
二月のほつちほつち花まつりおのり井の花は後におそふなまのこころの物とされ
二月のほつちほつち花まつりおのり井の花は後におそふなまのこころの物とされ
二月のほつちほつち花まつりおのり井の花は後におそふなまのこころの物とされ
二月のほつちほつち花まつりおのり井の花は後におそふなまのこころの物とされ

うるー

大内はさくらうらりに咲てはつらんまよふ色侍
大内はさくらうらりに咲てはつらんまよふ色侍
大内はさくらうらりに咲てはつらんまよふ色侍
大内はさくらうらりに咲てはつらんまよふ色侍
大内はさくらうらりに咲てはつらんまよふ色侍

春のあけのぼしを霞とあつめぬ花を井の橋に人ぞもむれ
まふ

春のあけのぼしを霞とあつめぬ花を井の橋に人ぞもむれ
春のあけのぼしを霞とあつめぬ花を井の橋に人ぞもむれ

春のあけのぼしを霞とあつめぬ花を井の橋に人ぞもむれ
春のあけのぼしを霞とあつめぬ花を井の橋に人ぞもむれ

春のあけのぼしを霞とあつめぬ花を井の橋に人ぞもむれ
春のあけのぼしを霞とあつめぬ花を井の橋に人ぞもむれ

春のあけのぼしを霞とあつめぬ花を井の橋に人ぞもむれ
春のあけのぼしを霞とあつめぬ花を井の橋に人ぞもむれ

類世集上

うら

花さき小風を待てるうらむもやうく憐のあふたはま
人々白河の花をうらむ秋はあつ後の花のうらむ

秋林苑にて花のうらむ侍
花はうらむはあつ後の花のうらむ侍

うらむはあつ後の花のうらむ侍
うらむはあつ後の花のうらむ侍

うらむはあつ後の花のうらむ侍
うらむはあつ後の花のうらむ侍

うらむはあつ後の花のうらむ侍
うらむはあつ後の花のうらむ侍

秋冬後池

瀨下秋冬

隣家秋冬

藤花

藤花留家

藤花映水

藤松樹花

池上藤

池邊藤花

大尺の家々夜の花まはるる

山吹の葉あはれもはらへていひゆらうもなを池のつ

流の多しなれどもいふ事あるまうく秋神こそなれり山吹

山の花とてさかす中庭のつゆもいひてこもりもさうり

るはれもいひよもさかすすめりかたれれれ風やいりん

つゆもあはれぬれぬれもさかす花の葉あはれよとてはなをまはる

刃の人多きまはるるやとてなをの花まはるるまはるる

位のいれけりねのあはれせらふいふとてなをまはるるけり

なほの葉かへらふまはるるまはるるまはるるまはるる

月 風あはれけりなをの葉かへらふ白糸よりまはるるまはるる

類葉上

南 山吹の葉あはれもはらへていひゆらうもなを池のつ

流の多しなれどもいふ事あるまうく秋神こそなれり山吹

月 山の花とてさかす中庭のつゆもいひてこもりもさうり

南 るはれもいひよもさかすすめりかたれれ風やいりん

雜春

つゆもあはれぬれぬれもさかす花の葉あはれよとてはなをまはる

暮春

刃の人多きまはるるやとてなをの花まはるるまはるる

旅宿暮春

位のいれけりねのあはれせらふいふとてなをまはるるけり

春残二日

なほの葉かへらふまはるるまはるるまはるるまはるる

三月盡

月 風あはれけりなをの葉かへらふ白糸よりまはるるまはるる

山三月盡

つゆもあはれぬれぬれもさかす花の葉あはれよとてはなをまはる

しつり

夜五月雨

文

雲井まてふりひのくまののちかむせかたはひさかた

船中五月雨

市

おひさる山の末郎の縁中ておきそり一記おきけ月五

又月あけらるちりちりしてまらぬおちりしく月あ

かろしは大きき小付後さうゆとてちりはほとありけは

まじしはろしませ

文

あまのそひかこまおひさる月けいさあつじとせ

かゝ

あの方におおきおひさる月けいさあつじとせ

夜く鴉川

うしろひらふりおひさる火の足ぬおまあせとつや

頭無上

連夜鴉川

照射

かつち名射たすまぬくさう一船のまひらけ

海邊螢

おひさるおひさるうらうらあつちあつちあつちあつち

江上螢多

いそその螢の数はあつちあつちあつちあつちあつち

水鶏

あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち

水鶏驚寝

あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち

獨聞水鶏

あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち

社頭水鶏

あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち

寺邊水鶏

あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち

永萬二年五月経書つた月

あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち

森邊納涼 名を同じきむらさきやいほむきほ大井社のほのすしほ

竹のよみとすむらさきやいほむきほ

竹風夜吟 大井のりつみ清きうたのほのまにりつみあはれ

水風如秋 大井のりつみ清きうたのほのまにりつみあはれ

泉 大井のりつみ清きうたのほのまにりつみあはれ

夏神樂 大井のりつみ清きうたのほのまにりつみあはれ

夏被 大井のりつみ清きうたのほのまにりつみあはれ

夏けくはくよめ

大井のりつみ清きうたのほのまにりつみあはれ

類集上

秋部

七月一日廿あしよめ

船日くうあはれりつみ清きうたのほのまにりつみあはれ

海邊秋来 大井のりつみ清きうたのほのまにりつみあはれ

旅泊秋来 大井のりつみ清きうたのほのまにりつみあはれ

早秋 大井のりつみ清きうたのほのまにりつみあはれ

蟬のぬきとて

七夕 大井のりつみ清きうたのほのまにりつみあはれ

七夕言志
 秋の夜は静かに過ぎゆく
 月影の光を浴びて
 思ふ心は遠くへ
 送る風を待つ
 夕陽の残照を
 眺めながら
 静かに
 眠る

萩

隣家晚萩
 風底萩
 晚見稻花
 萩
 萩花露重
 路頭萩
 禁中萩
 薄
 秋の道遠く
 たつと
 萩の花

類集上

古籬菊萱

野菊萱

葛

女郎花

女郎花近水

秋の比人のみちのさかきさかき
しほくさの中をみちのさかき
おをよみてはくさの花のまはりに
おをよみてはくさの花のまはりに

草花

折るる花のうらみは秋の野に
折るる花のうらみは秋の野に

類聚上

草花絶園

草花露重

草花催促

月前草花

秋花

秋花勝春花

秋のさかきの中をみちのさかき
おをよみてはくさの花のまはりに

越し草花

秋のさかきの中をみちのさかき
おをよみてはくさの花のまはりに

秋野

野徑眺望

山邊眺望

露

露秋夜玉

野邊露

故鄉露

秋風

野風

文 秋野の露のついでに山邊の眺望

野徑の眺望のついでに山邊の眺望

月 露のついでに秋夜の玉

野邊の露のついでに故郷の露

秋風のついでに野風のついでに

夕暮れのついでに月夜のついでに

今宵のついでに秋風のついでに

秋風のついでに野風のついでに

夕暮れのついでに月夜のついでに

一頓 集正

ゆづる魚のついでに

雨 秋のついでに野風のついでに

月 夕暮れのついでに月夜のついでに

雨 今宵のついでに秋風のついでに

月 秋風のついでに野風のついでに

雨 夕暮れのついでに月夜のついでに

文 今宵のついでに秋風のついでに

秋風のついでに野風のついでに

月 夕暮れのついでに月夜のついでに

馬

月 今宵のついでに秋風のついでに

雨 秋風のついでに野風のついでに

月 夕暮れのついでに月夜のついでに

雨 今宵のついでに秋風のついでに

月 秋風のついでに野風のついでに

月 夕暮れのついでに月夜のついでに

通照寺の月を詠て

月照巴屋
旅宿月

名取秋月

月得秋勝

月終夜友

月夜逢友

月前恋友

あはれの人よ月を詠て月を詠すめは清波の地
あはれの人よ月を詠て月を詠すめは清波の地
あはれの人よ月を詠て月を詠すめは清波の地
あはれの人よ月を詠て月を詠すめは清波の地
あはれの人よ月を詠て月を詠すめは清波の地
あはれの人よ月を詠て月を詠すめは清波の地
あはれの人よ月を詠て月を詠すめは清波の地
あはれの人よ月を詠て月を詠すめは清波の地
あはれの人よ月を詠て月を詠すめは清波の地
あはれの人よ月を詠て月を詠すめは清波の地

題集上

月前聞虫

月前擣衣

霜晓月

花人よ月を詠て月を詠すめは清波の地

關路惜月
閨餘秋月
寄月述懷

あはれの人よ月を詠て月を詠すめは清波の地
あはれの人よ月を詠て月を詠すめは清波の地
あはれの人よ月を詠て月を詠すめは清波の地
あはれの人よ月を詠て月を詠すめは清波の地
あはれの人よ月を詠て月を詠すめは清波の地
あはれの人よ月を詠て月を詠すめは清波の地
あはれの人よ月を詠て月を詠すめは清波の地
あはれの人よ月を詠て月を詠すめは清波の地
あはれの人よ月を詠て月を詠すめは清波の地
あはれの人よ月を詠て月を詠すめは清波の地

菊

紫の香のたのしみもはげしくはひびく白菊の花
は花亦ある者系任綱のちとん

菊花待開

菊綻禁庭

菊滿庭

九月五日の菊はあはれ

花をて老ぬらん
花をて老ぬらん
花をて老ぬらん

月おの菊の花をまわす

おの月影あけたる色は菊の花の紅葉

大納言実家ののちのちの菊をまわす
大納言実家ののちのちの菊をまわす
大納言実家ののちのちの菊をまわす

類葉上

文
おの月影あけたる色は菊の花の紅葉

うき

残菊失路

紅葉

文
おの月影あけたる色は菊の花の紅葉

おの月影あけたる色は菊の花の紅葉

おの月影あけたる色は菊の花の紅葉

おの月影あけたる色は菊の花の紅葉

おの月影あけたる色は菊の花の紅葉

おの月影あけたる色は菊の花の紅葉

おの月影あけたる色は菊の花の紅葉

爭尋紅葉

名所紅葉

紅葉繞垣

山路秋深

秋のすきくしあ

のちかき紅葉のちかき垣のちかき山路のちかき秋のすきくしあ
のちかき紅葉のちかき垣のちかき山路のちかき秋のすきくしあ
のちかき紅葉のちかき垣のちかき山路のちかき秋のすきくしあ

月 争尋紅葉のちかき垣のちかき山路のちかき秋のすきくしあ

名所紅葉のちかき垣のちかき山路のちかき秋のすきくしあ

紅葉繞垣のちかき垣のちかき山路のちかき秋のすきくしあ

山路秋深のちかき垣のちかき山路のちかき秋のすきくしあ

秋のすきくしあ

類集上

田家暮秋

惜秋忘恋のちかき垣

のちかき紅葉のちかき垣のちかき山路のちかき秋のすきくしあ
のちかき紅葉のちかき垣のちかき山路のちかき秋のすきくしあ
のちかき紅葉のちかき垣のちかき山路のちかき秋のすきくしあ

九月盡

九月盡のちかき垣のちかき山路のちかき秋のすきくしあ

雨中九月盡甫 秋心多感ねおあつらふをせむらひしきればをれん
大空も秋のこもるまぢりしきさのうたを打たれはく

類聚上

冬部

初冬

月 秋の心風よ本寒かたをふまひしうもあはれはなり
君をいひ交さうと秋風の頃との候よあはれはなり
よの何かならばあはれはのよの何かならばあはれはなり
初冬はあはれはあはれはあはれはあはれはあはれはあはれは
久安のうたあはれはあはれはあはれはあはれはあはれはあはれは

時雨

文 雨の心あはれはあはれはあはれはあはれはあはれはあはれは
あはれはあはれはあはれはあはれはあはれはあはれはあはれは
あはれはあはれはあはれはあはれはあはれはあはれはあはれは
あはれはあはれはあはれはあはれはあはれはあはれはあはれは

行路時雨

山居時雨

旅宿時雨

落葉

落葉入簾中
月前落葉
關路落葉

晴くると何處もいふとたまたまの遠くくつりつとむん
浦の戸は入はれぬとてあつていふとむんくつりつとむん
いふとむんくつりつとむんくつりつとむんくつりつとむん
山ざりの風あつていふとたまたまの遠くくつりつとむん
秋のうらみまじりてむんくつりつとむんくつりつとむん
文 立田ぬれ枝もさむむんくつりつとむんくつりつとむん
本末の二葉もあつていふとたまたまの遠くくつりつとむん
本末の二葉もあつていふとたまたまの遠くくつりつとむん
出さるるといふとたまたまの遠くくつりつとむん
浪のとていふとたまたまの遠くくつりつとむん
文 都はまといふとたまたまの遠くくつりつとむん

類葉上

山路落葉
隔谷落葉
紅葉關池
水上落葉
落葉埋路
落葉驚夢
閑庭落葉
山家落葉
故郷落葉

本末の二葉もあつていふとたまたまの遠くくつりつとむん
もみぢ葉もあつていふとたまたまの遠くくつりつとむん
かつりつとむんくつりつとむんくつりつとむん
本末の二葉もあつていふとたまたまの遠くくつりつとむん
今世の山の木もあつていふとたまたまの遠くくつりつとむん
谷川のうらみまじりてむんくつりつとむんくつりつとむん
文 本末の二葉もあつていふとたまたまの遠くくつりつとむん
山里もあつていふとたまたまの遠くくつりつとむん
おのほくつりつとむんくつりつとむんくつりつとむん
文 本末の二葉もあつていふとたまたまの遠くくつりつとむん

冬月

文 白舟は雪のあつは風りのものよあははるるあはの月
 袖さきてあはは風りの月をけを枝とさして雪のあはの月
 月影を水にうつしあはのあはるるあはるるあはるる
 月 此のあはを風をさかすあはのあはのあはのあはのあはの
 浦 冬はあはを雪のあはのあはのあはのあはのあはのあはの
 冬 冬はあはを雪のあはのあはのあはのあはのあはのあはの
 千鳥 冬はあはを雪のあはのあはのあはのあはのあはのあはの
 寒夜千鳥 冬はあはを雪のあはのあはのあはのあはのあはのあはの
 月 冬はあはを雪のあはのあはのあはのあはのあはのあはの

類集上

曉千鳥

川邊千鳥

海邊千鳥

水鳥近馴

夜聞水鳥

月前水鳥

霰

文 秋あはを雪のあはのあはのあはのあはのあはのあはの
 文 打わらあはのあはのあはのあはのあはのあはのあはの
 川 志はあはを雪のあはのあはのあはのあはのあはのあはの
 浦 秋あはを雪のあはのあはのあはのあはのあはのあはの
 浦 月影を水にうつしあはのあはのあはのあはのあはのあはの
 文 子をさかすあはのあはのあはのあはのあはのあはのあはの
 浦 高木あはを雪のあはのあはのあはのあはのあはのあはの
 浦 冬はあはを雪のあはのあはのあはのあはのあはのあはの
 浦 冬はあはを雪のあはのあはのあはのあはのあはのあはの
 浦 冬はあはを雪のあはのあはのあはのあはのあはのあはの
 浦 冬はあはを雪のあはのあはのあはのあはのあはのあはの

久々の雪よりの山をのりて
ほろけの山をのりて
おのれをのりて
雪のちのけりて

うらな

文

ある人の雪よりの山をのりて
つらりて

うらな

朝の雪よりの山をのりて

類聚上

待初雪

初雪

雪のちのけりて

甫

おのれをのりて

雪のちのけりて

雪のちのけりて

初雪のちのけりて

文

雪のちのけりて

雪のちのけりて

雪のちのけりて

甫

雪のちのけりて

旅雪

雪埋樵路

曉雪

社頭雪

行路初雪

山家雪

閑居雪

連日雪

月照山雪

雪の白くはるかに
 閑居の雪の行はるる
 連日雪の降りつる
 月照山雪の清く
 雪の白くはるかに
 閑居の雪の行はるる
 連日雪の降りつる
 月照山雪の清く

志はるかに

鷹狩

雪中鷹狩

鷹狩の雪の白くはるかに
 雪中鷹狩の清く
 鷹狩の雪の白くはるかに
 雪中鷹狩の清く

類集上

晚鷹狩

炭竈

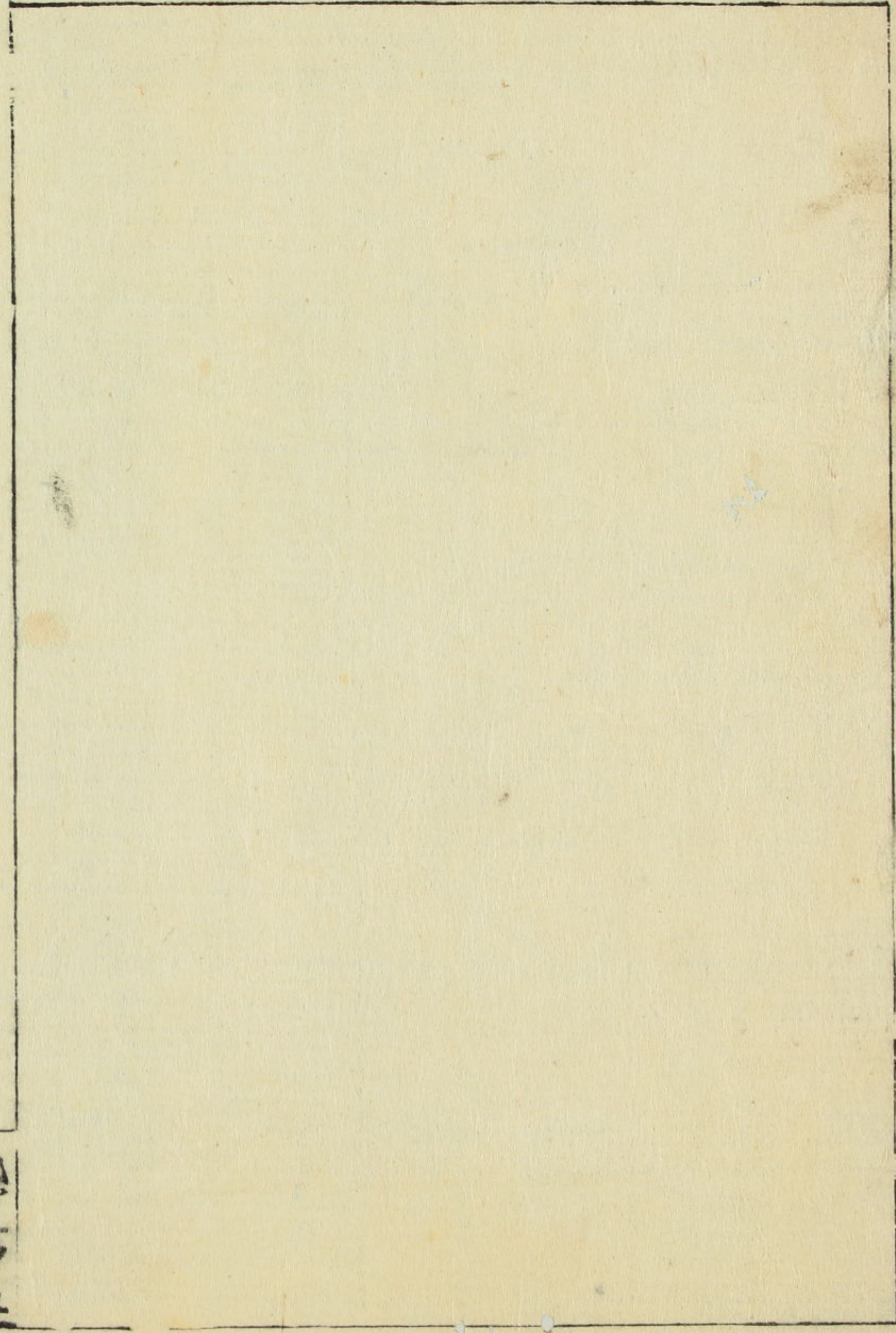
歳暮

除夜

晩鷹狩の雪の白くはるかに
 炭竈の煙の白くはるかに
 歳暮の八十雪
 除夜の雪の白くはるかに

和歌類集上卷 畢

Handwritten notes in the top right corner of the right page.



三九

類集上

Handwritten notes at the bottom right of the right page.

